

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式									
E112J001		美術科指導法(中等) (Teaching Methods of art education(Junior High School))															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員											
必修	2	2	教育学部 令和2年度 以降入学生用			氏名 藤井 康子 E-mail fujii-yasuko@oita-u.ac.jp 内線 7595											
授業の概要	中学校美術科及び高等学校芸術科(美術)における表現領域と鑑賞領域の指導方法と評価に関する基礎的な知識を身に付け、青年期の発達段階を踏まえた授業計画を立案する。最後に「A表現」及び「B鑑賞」の模擬授業を実践し、指導の内容と方法について検証する。																
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標1 中学美術・高校美術の表現及び鑑賞の目標と内容、指導と評価の在り方について理解できる。																	
目標2 造形表現の発達段階や個人差等を踏まえた教材・題材を自分なりに構想できる。																	
目標3																	
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
授業の内容																	
1 表現及び鑑賞の内容に関する基礎的理解																	
2 青年期にみられる造形表現の特性と指導の在り方について																	
3 「表現(絵画・彫刻)」に関する学習指導-教材研究 (表現主題の設定、アイデアスケッチ)																	
4 「表現(絵画・彫刻)」に関する学習指導-教材研究 (教師モデルの制作)																	
5 「表現(絵画・彫刻)」の学習指導案の作成(指導計画・内容の立案)																	
6 「表現(絵画・彫刻)」の学習指導案の作成(指導方法の検討)																	
7 模擬授業を通じた指導方法の検討																	
8 「表現(デザイン・工芸)」に関する学習指導-教材研究 (表現主題の設定、アイデアスケッチ)																	
9 「表現(デザイン・工芸)」に関する学習指導-教材研究 (教師モデルの制作)																	
10 「表現(デザイン・工芸)」の学習指導案の作成(指導計画・内容の立案)																	
11 「表現(デザイン・工芸)」の学習指導案の作成(指導方法の検討)																	
12 模擬授業を通じた指導方法の検討																	
13 「鑑賞」指導の実践的考察 主体的・対話的な学びを促す鑑賞とは																	
14 「鑑賞」指導の実践的考察 鑑賞を通して育む資質・能力																	
15 表現及び鑑賞の評価の在り方について																	
ラ ア イ ニ テ ン イ グ レ ブ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	毎回提出してもらう学習の振り返りレポートを取り上げ、学生が相互に意見交換や改善案等を指摘し合う時間を設ける。ペア学習や演技演習を取り入れ、学習内容への理解と具体的な指導内容の考案に役立てる。					工 夫 そ の 他 の										
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	各回の授業で取り上げる内容について、事前に学習指導要領で該当する範囲を読み予習しておくこと。(15h)															
	事後学修	講義の内容を踏まえ、児童美術や青少年の美術に関心を持ち、児童生徒の作品展の作品をみて理解を深めること。(10h)															
教科書	・文部科学省『中学校学習指導要領解説 美術編』平成29年告示。 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 芸術(音楽 美術 工芸 書道)編 音楽編 美術編』平成30年告示。 この他、授業時に指示する。																
参考書	・国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【中学校 美術】』、令和2年3月。 ・国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック」(高等学校編)、令和元年6月。 ・福田隆真、茂木一司、福本謹一著『美術科教育の基礎知識』建帛社、平成27年(四訂版第6刷)。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10					
	小レポート	20%															
	指導案の作成・演習への取り組み	40%															
	模擬授業の実施	40%															
注意事項	特になし。																
備考	この科目は『地域創生教育科目』です。																
リンク	URL																